

真田幸弘の俳諧活動

松代藩第六代藩主

**8.19** (木) 13:30~16:30  
長野市トイーゴ学習センター

シンポジウム

大名俳諧と真田幸弘の俳諧

講演・パネルディスカッション

井上敏幸 (佐賀大学)

西田耕三 (近畿大学)

小幡 伍 (真田連句を読む会会長)

平林香織 (長野県短期大学)

玉城 司 (清泉女学院大学)

**8.20** (金) 10:00~11:30  
松代町公民館

講演会

真田家伝来の典籍

講演者 原田和彦 (長野市立博物館)

**8.21** (土) 10:00~12:00  
集合 : 真田宝物館前駐車場

松代散策 長国寺など幸弘公ゆかりの地探訪

江戸時代「武の真田」として天下に名を馳せた真田家ですが、  
第六代藩主幸弘の時代には盛んに文芸活動を展開しました。  
真田フォーラム 2010 では、「文の真田」の実態に迫ります。

現在、長野市松代町の真田宝物館 (松代藩文化施設) には、松代藩主真田家を中心とした、江戸時代の武具や道具・衣装類のほか、大量の古文書や文藝資料が所蔵されています。それらから、大名たちが、武芸ばかりか文芸を嗜んでいた事実が浮かび上がってきます。とりわけ、同時代の大名や家臣と和歌の贈答や俳諧連句に一座して交流した松代藩六代藩主真田幸弘の文芸活動に瞠目させられます。

この度、その真田幸弘の俳諧活動に焦点をあてて、同時代の大名で俳諧を楽しんだ大和郡山藩二代藩主柳沢信鴻<sup>のぶとき</sup>、出羽鶴岡藩七代藩主酒井忠徳<sup>ただあり</sup>、熊本藩六代藩主細川重賢<sup>しげかた</sup>などとの比較を通じて、真田幸弘の俳諧の特徴について知り、「文の真田」の位相を明確にし、今後の研究の方向性と方策を検討します。また、真田家に伝来している典籍・文藝資料の特色についてうかがえます。さらに、幸弘以降幸貫や佐久間象山を生んだ松代の風土を知るために実地踏査を致します。

# 真田フォーラム 2010

**参加無料**  
部分参加も可能です

問合せ先：清泉女学院大学 総務課 Tel 026-295-5665

本研究「真田文書アーカイブの構築及び松代藩六代藩主真田幸弘の点取俳諧に関する研究」は、平成 22 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) の補助を受けて実施します。